

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	child hands大阪		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の専門家が支える安心の支援体制	保育士、児童指導員、理学療法士、言語聴覚士、心理士など、さまざまな分野の専門家が在籍。多角的な視点から子ども一人ひとりに寄り添い、発達や成長をサポートします。	多角的な視点から発達や成長をサポートし、個々の可能性を引き出す支援を行いたい。
2	ITと運動のバランスの取れた支援	<ul style="list-style-type: none"> ● IT機器を活用したコミュニケーションと学び 平日の放課後は、タブレットやPC、PlayStation、Nintendo SwitchなどのIT機器を活用し、普段関わることのない他校の友達とも交流しながら、楽しく活動に取り組んでいます。ゲームやデジタルツールを通じて、協力やコミュニケーションの力を育みます。 ● 体を動かしながら楽しく運動 長期休暇や学級閉鎖日には、近隣の公園や当事業所が運営する運動施設を活用し、鉄棒、跳び箱、クライング、上り綱などの運動遊びを行っています。遊びを通じて運動能力の向上を図るだけでなく、子どもたちが自信を持って挑戦できる環境を整えています。 デジタルとアクティブな体験のバランスを大切にし、子どもたちが楽しく成長できる場を提供しています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 興味を引き出すプログラミング学習 当事業所では、子どもたちの興味・関心を大切にしながら、プログラミング学習の充実を図っています。Minecraft(マイクラ)などの親しみやすいツールを活用し、遊び感覚で楽しみながら論理的思考力や創造力を育む取り組みを進めたい。 ● 運動とリラクゼーションを取り入れた支援 当事業所が運営する運動施設を活用し、鉄棒、跳び箱、クライング、上り綱などの運動遊びを通じて、楽しみながら体力や運動能力の向上を目指します。また、ヨガやストレッチを取り入れることで、リラクゼーションの方法を身につけ、心と体のバランスを整えるサポートも行っていきます。
3	体験を通じた遊びの場の提供。	社外見学を積極的に取り入れ、子どもたちが実際の体験を通じて学べる機会を提供しています。企業の工場見学や季節に合わせた味覚祭り、船に乗る体験、買い物学習、クッキング活動など、多彩なプログラムを用意。楽しみながら社会の仕組みを学び、日常生活に活かせる経験を積むことができます。	さらに、同じ体験を定期的にもう一度行う機会を設け、二度目の体験では子どもたち自身がタイムスケジュールを考え、企画に参加。見通しを持って行動する力を育み、主体的に学ぶ姿勢を養います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	若手職員が多く、成長途上	一部の活動において得意分野に偏りが見られることが課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員の成長と支援の幅を広げる取り組み 職員が経験を積みながら成長できる環境を整えています。子どもたちにより多様な経験を提供できるよう、職員のスキル向上や新たなプログラムの導入を進め、支援の幅を広げていきます。
2	地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知度の不足 事業所の存在や活動内容が地域に十分に知られていない。 ● 学校や他機関との連携不足 小中学校や福祉機関との協力関係が十分に築けていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域とのつながりを深める取り組み 現在、地域とのつながりをさらに深めるための取り組みを進めています。地域の方々との交流を増やし、より開かれた事業所づくりを目指すとともに、療育の一環として小中学校への訪問も積極的に実施。学校との連携を強化し、子どもたちがより安心して学び、成長できる環境づくりに努めています。